

情報セキュリティと社会

• 研究の目的

— 情報セキュリティ技術の社会への影響評価

情報セキュリティ技術は、情報の安全・安心な利活用をするための技術です。安全・安心は重要なことですが、無制限に投資ができるわけではありません。情報の利活用によるメリットや情報セキュリティが侵されたとき生じる損害、情報セキュリティ技術の効果を考慮して、投資効果に見合う情報セキュリティ投資を行うことが必要となります。

— 情報セキュリティを確保するための社会の仕組みの開発

情報セキュリティを確保するためには、技術のみでは不十分で人の参加が不可欠です。もちろん情報そのものや、情報を扱うコンピュータや通信ネットワークにおいて情報セキュリティ技術により十分な対策をとることは必要ですが、同時に情報セキュリティ確保のために人はどのように行動すべきか、また社会の仕組みとしてどのように支援すべきか、も重要です。

• 研究のアプローチ

— 社会系の諸科学を用いた理論的研究

社会系科学(経済学、法学、社会学、心理学など)の理論を応用し、セキュリティ評価モデルの構築を行います。

— 実証研究

各種統計データやフィールドワークを通して理論の検証や新たな問題の抽出などの研究を行います。

• 現在の研究内容

セキュリティ情報共有の経済モデルによる分析

— 経済モデルの構築

情報セキュリティの情報共有について経済モデルを構築します。このモデルは情報セキュリティ投資と情報共有が情報セキュリティに係わるコストに対しどのような影響があるかを抽象的に表します。また、情報共有を促進するための施策、たとえば補助金を提供する、公益団体を通して情報共有を行うなどをモデルの中に組み込みます。

— 費用対利益、インセンティブの分析

構築したモデルを用いて分析を行います。分析の中心は各組織がどのようなメリット、デメリットを持つか情報共有に対しどのようなインセンティブを持つかさらにどのような行動が予想されるかといった各組織に対する分析と情報共有が社会全体に対しどのような影響を与えるかといった社会全体に対する分析の二つです。

— 情報共有促進のための社会的仕組みの検討

分析を通して、どのような情報共有を促進するためにどのような社会的な仕組み(制度など)が必要か研究します。

— セキュリティ情報共有モデルの実証